

令和6年度人権教育に係る年間計画の取組状況について

1 概要

平成26年3月の「湯河原町いじめに関する調査委員会」調査報告書を受けて、平成26年度より本町において「人権教育に係る年間計画」を作成し、各学校での取組を始めました。

各学校は、本町の計画を基に、学校の状況や児童・生徒の実態、発達段階を踏まえたうえで、工夫した取組を行いました。また、取組及び実施後の振り返りと評価を月毎にまとめ、年3回の定期報告を受け、次年度の取組に向けた各学校の成果と課題を確認し合っています。

2 主な取組

町全体

毎年4月を「湯河原町人権教育月間」と位置付けて、学校を中心に人権教育に係る取組を重点的に行いました。例年、4月の職員会議では、平成25年の事案について、湯河原町いじめに関する調査委員会の調査報告書を読むことで、全職員で共通理解を図っています。朝会で校長や人権担当教諭から人権講話を行ったり、道徳の時間に、「公正公平」や「生命の尊さ」、「個性の伸長」「相手を思いやる言葉づかい」などについて取り上げたりしました。懇談会やPTA総会で人権について説明したり、なかなか学校に足を運べない保護者に向けて、学校HPやSNSなどを活用し、学校での取組を発信したりしました。地域に対しても、湯河原中学校の美術部によって啓発ポスターを作製いただき、町内のさまざまな場所に掲出したりすることで、「人権」に対する意識を高めていただけるような取組としました。

今年度もACT（アート コミュニケーション トレーニング）を各学校で実施しました。そこでは他者と関わりながら創造的・創作的な活動に取り組むことを通して、自分や他者を理解することで、よりよいコミュニケーションを学ぶ場としました。

また、『「人権」に関する川柳』を小学校5・6年生と中学校1～3年生を対象に募集し、人権について考える機会としました。令和6年度は、578点の応募があり、その中から選ばれた入賞作品が印刷したプリントをクリップファイルに入れ、小学校5・6年生、中学校1～3年生に配布しました。昨年度は、最優秀賞1点、優秀賞4点、努力賞7点の計12点を表彰することで、学校や地域の人権意識啓発に努めました。8月には、人権教育研修会を実施し、子どもたちが、自分の想いや考えを伝え合える元気な学校づくりについて考え、人権意識を醸成しました。

さらに、いじめ問題対策連絡協議会や学校サポート会議等を活用し、各学校の状況や課題、及び取組や関係諸機関との情報を共有することで、よりよい児童・生徒指導をめざしています。

湯河原中学校

ハートフルウィークとして生徒と教員との丁寧な面談を定期的実施しています。特に、2回目のハートフルでは、担任だけでなく、部活動の顧問も連携し、一人の生徒に対して多面的に関わることを意識しています。あわせてQ-Uアンケートや生活アンケートを実施し、一人ひとりの気持ちに寄り添いながら、生徒理解を深め、その後の指導・支援につなげることができています。

また、学校行事、生徒会活動、道徳の時間など、人権を意識した取組に留まらず、生徒が主体となる取組を通して、自己有用感の醸成につながるように工夫・改善が図られています。運動会では、各種目の内容やルールを誰もが参加しやすいように検討したり、合唱コンクールを合唱コンサートとし競い合うのではなく、お互い讃え合うことを大切にしたりする取組を行っています。生徒会役員が主体となった取組である「いじめ検証会議」を実施し、「いじめはなぜ起きるのか、なくすためには学校はどう変わっていけばよいか」をテーマに生徒と教員が意見交換を行いました。生徒と教員が同じ目線に立って協議・協働して湯河原中学校を築いていくという共通意識を持つことができています。11月には元プロ野球選手をお招きし、人権講演会を行いました。

今後も「誰にとっても安心して安全で居心地の良い学校」となるよう、生徒と教員が共通意識をもって活動を続けていくことが必要です。

各小学校

担任と児童の個別面談の充実や、校長面談の実施、さらに、Q-Uアンケート、生活アンケートの実施による児童の多面的な実態把握に努め、児童が学校を、居心地のよい安心できる場所と感ずることができるよう努めました。

行事を再構築する中で、児童会を中心とした集会の企画・運営など、できる限りの児童の主体的な取組を通して、異学年が交流する機会を増やし、自己有用感や、他者と肯定的に関わる態度を醸成することができました。

また、各校の人権課題に合わせて講師をお招きし、人権研修を実施することで、教職員の人権意識を高めています。

児童や保護者の教育的ニーズや課題が複雑化、低年齢化している現状にあって、児童全員を対象としたスクリーニングを実施し、情報を共有することで、児童一人一人の発達段階や特性をへの理解を深め、必要に応じてスクールカウンセラー等と連携するなど、支援・指導をチームで行っています。児童指導委員会やフロアーミーティング、ケース会議等の校内体制及びその取り組み状況についてPDCAサイクルに基づき、検証を深め、今後も児童の状況に即した取組となるよう努めていこうとしています。

年間計画策定における現状予測及びねらい・目的

月	現状予測	ねらい・目的	提言
4	<ul style="list-style-type: none"> 平成 25 年 4 月 10 日の事案が、に年数の経過や教職員の入れ替わりと共に薄らいでいく危惧がある。 入学、クラス替え、担任交代等もあり、児童・生徒の心の状況が不安定である。 教職員の異動等で、いじめ問題等に対する指導方針やマニュアルの徹底が必要となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成 25 年 4 月 10 日の事案を共有し、決して繰り返さないという思いを持ち、町全体でこれからの「生きる力」を育む。 新しい環境の中、児童・生徒が、望ましい人間関係を構築していけるようにする。 教職員が、いじめ問題等を含む、児童・生徒指導の方針及びマニュアルを共通理解し、児童・生徒指導を行うための共通意識を持つ。 	① ④ ⑤ ⑩
5	<ul style="list-style-type: none"> 新しい環境にも慣れ始め、それに伴い、様々な悩み、トラブル等が発生する。 	<ul style="list-style-type: none"> 担任とゆったりと時間を取って、話をすることで、児童・生徒に「安心感」を生む。 	④
6	<ul style="list-style-type: none"> 4、5月で解消できなかった事案に対し、児童・生徒の中に表出しにくい(できない)思いが積み重なっていることがある。 保護者は担任や学級の様子をわかり始めるが、何か課題が生じたときに「これくらいで相談するのは…」とためらう保護者もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉では表出しにくい(できない)思いを、文字により表出するチャンスを設定し、児童・生徒の思いを把握するとともに、保護者の思いについても把握するように努める。 学級集団の状態や、子ども一人ひとりの意欲・満足感などを測定し、今後の指導に役立てる。 	④ ⑥
7	<ul style="list-style-type: none"> 夏休みを迎えるにあたり、落ち着かない状況にある。 学校は、4～7月の取組を振り返る時期にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常のやり取りやアンケートでは表出しにくい思いを把握する。 4～7月の取組を振り返り、成果、課題、課題解決のための手立てを分析し、夏休み以降の取組に生かす。 	③ ④
8	<ul style="list-style-type: none"> 夏季休業中であるため、教職員が、夏休み前までの取組をしっかりと振り返り、夏休み後の取組について研究と修養に努める、より一層の時間的な余裕がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 夏休み前までの取組をしっかりと振り返り、夏休み後の取組について研究と修養に努める。 	支 2
9	<ul style="list-style-type: none"> 夏休みを経て、児童・生徒の人間関係も変化し、中には、表出しにくい(できない)思いを積み重ねている児童・生徒もいることがある。 夏休みの生活を通して、新たな人間関係や、自己を取り巻く環境の変化等が生じ、それに伴い、様々な悩み、トラブル等が発生する。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉では表出しにくい(できない)思いを、文字により表出する機会を設定し、児童・生徒の思いを把握する。 担任とゆったりと時間を取って、話をすることで、児童・生徒に「安心感」を生む。 	⑥ ④

月	現状予測	ねらい・目的	提言
10	<ul style="list-style-type: none"> 運動会(小)、合唱コンサートや学習発表会(中)など、大きな学校行事が実施され、児童・生徒も慌ただしい日々を送る中で、トラブル等が生じる可能性が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事を通して、「みんなで一つのものを作り上げる」という意識の元、学校行事を成功させる。 	④
11	<ul style="list-style-type: none"> 大きな学校行事を経験し、児童・生徒の中には、表出しにくい(できない)思いを積み重ねている児童・生徒もいることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉では表出しにくい(できない)思いを、文字により表出するチャンスを設定し、児童・生徒の思いを把握する。 	⑥
12	<ul style="list-style-type: none"> 冬休みを迎えるにあたり、落ち着かない状況にある。 Q-U(第1回)から半年を経て、児童・生徒を取り巻く状況や本人の状態に変化が生じている。 学校は、4～12月の取組を振り返る時期にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常のやり取りやアンケートでは表出しにくい思いを把握する。 学級集団の状態や、子ども一人ひとりの意欲・満足感などを測定し、今後の指導に役立てる。 4～12月の取組を振り返り、成果、課題、課題解決のための手立てを分析し、冬休み以降の取組に生かす。 	④ ⑥
1	<ul style="list-style-type: none"> 冬休みの生活を通して、新たな人間関係や、自己を取り巻く環境の変化等が生じ、それに伴い、様々な悩み、トラブル等が発生する。 	<ul style="list-style-type: none"> 担任とゆったりと時間を取って、話をすることで、児童・生徒に「安心感」を生む。 	④
2	<ul style="list-style-type: none"> 新年度をあと数カ月で迎えるにあたり、児童・生徒の中には、表出しにくい(できない)思いを積み重ねている児童・生徒もいることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉では表出しにくい(できない)思いを、文字により表出するチャンスを設定し、児童・生徒の思いを把握する。 	⑥
3	<ul style="list-style-type: none"> 学校は、今年度の取組を、経営反省として振り返る時期にあり、来年度に向けた体制づくりが必要となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の取組を振り返り、成果、課題、課題解決のための手立てを分析し、来年度の体制づくりや取組に生かす。 	③

学校別の主な取組及び振り返り・評価（4月～6月）

湯河原町立湯河原小学校		湯河原町立吉浜小学校		湯河原町立東台福浦小学校		湯河原町立湯河原中学校		
主な取組	振り返り・評価	主な取組	振り返り・評価	主な取組	振り返り・評価	主な取組	振り返り・評価	
4月	<p>○道徳の授業で「人権」に関わりの深い項目を扱う。</p> <p>○学級活動の授業で「人間関係づくり」の内容（SST等）を教職員が実施する。</p> <p>○始業式、入学式、朝会、学年集会等で、管理職及び総括教諭から、「人権」に係る講話及び説諭を行う。</p>	<p>○道徳の授業で一人一人が違うことや命の大切さについて扱った。</p> <p>○心が豊かになるような読み聞かせ活動を行った。</p> <p>○人権朝会を開き、校長が人権に係る講話を行った。</p>	<p>○始業式、入学式、朝会、学年集会等で、管理職及び総括教諭から、「人権」に係る講話及び説諭を行う。</p> <p>○人権担当から「人権」に係る内容の朝会を全校に向けて行う。</p>	<p>○朝会では、人権担当が「人権」に係る講話を行った。低学年児童にもわかる内容にし、全校で共通理解を図ることができた。保護者には、学校だよりやブログ、SNS等で、地域には回覧等で「湯河原町人権月間」であることを知らせた。学習参観日を設け、クラスの児童の様子を保護者に見てもらった。</p>	<p>○各校で平成25年4月10日の事案について共有する。</p> <p>○ポスターを作成し、町内に発信する。</p> <p>○学級活動の授業で「人間関係づくり」の内容（SST等）を教職員が実施する。</p>	<p>○今年度異動してきた職員全員に「湯河原町いじめに関する調査報告書」を読んで感想をいただいた。</p> <p>○「湯河原町人権月間」のポスターを各教室や昇降口に掲示した。</p> <p>○学級活動を通して教師と子供、子供同士の関係を創れるようにした。また、道徳の学習で命や人権に関する題材を扱った。</p>	<p>○新しく着任した職員に事案に関するファイルを渡し、一読する。</p> <p>○ハートフルを実施する。</p>	<p>○年度初めの打ち合わせなどで、新しく着任した職員にも、平成25年4月10日の事案について全教職員で共通理解を図ることができた。</p> <p>○各学年、生徒の実態に合わせ、新年度への不安や望ましい人間関係が築けるように工夫をした。また、ハートフルに関して、8月に部活動の顧問にも対象を広げ、学級担任だけでなく、部活動の顧問でも関わっていくことを確認した。</p>
5月	<p>○日頃の見取りやいじめアンケートからの情報、児童指導案件の報告があったときに迅速に対応してきた。いじめ防止マニュアルに従って、いじめ防止対策委員会を開き、対策について話し合った。</p>	<p>○スクリーニングを行ってから、児童指導全体会を開き、児童一人一人の理解を深め、効果的な指導事例や問題行動についての情報を共有した。さらに、個別のサポート会議を開き、個別の支援の方法について共通理解を図った。</p>	<p>○教育相談（希望制）を実施する。</p> <p>○人権教育月間についての本校の取り組み状況を把握、報告する。</p>	<p>○教育相談（希望制）を実施し、家庭や学校での児童の様子について情報共有をした。得た情報を児童の関わりに生かしていった。</p>	<p>○Q-U（第1回）を実施する。</p>	<p>○児童が回答したQ-Uについて分析し、フロアーミーティングなどを通して共通理解する。</p>	<p>○学校行事を作り上げる様々な場面で「人権」を意識した取組、指導、声掛けを行う。</p>	<p>○「勝ち負け」にこだわることなく、行事としてクラス全体で前向きに取り組むことができた。3年生のブロックをまとめる優しい声掛けなどが素晴らしかった。</p>
6月	<p>○生活アンケート（第1回）を実施する。</p> <p>○Q-U（第1回）を実施する。</p>	<p>○いじめアンケートとQ-Uを実施した。気になる事案については個別面談を行い、聞き取りや対応を早急に行った。また、Q-Uをもとに学級集団の状態や児童一人一人の意欲・満足感などを確認し、学年や教育相談Coと共有した。行政・</p>	<p>○学習参観日、PTAが中心になった清掃活動を行う。</p> <p>○いじめ対策委員会（第1回）を開催する。</p>	<p>○学習参観日を設け、学校での児童の様子を保護者に見てもらった。</p> <p>○児童の抱える諸問題や対応の仕方について、情報交換し、職員間で共通理解を図った。</p>	<p>○Q-U分析会の実施。</p> <p>○困ったことのないかなアンケートの実施。</p>	<p>○Q-U分析会で、各クラスでの児童の様子を共有することができた。</p> <p>○困ったことのないかなアンケートをもとにして、児童の個人面談を行い、それぞれの思いを受け止めることができた。</p>	<p>○学校行事を作り上げる様々な場面で「人権」を意識した取組、指導、声掛けを行う。</p> <p>○生活アンケート（第1回）、Q-U（第1回）、保護者アンケート（第1回）を実施する。</p>	<p>○修学旅行や校外学習では、多少のトラブルも起きたが、生徒と丁寧に向き合い、生徒も全体的に前向きに取り組むことができた。</p> <p>○学級担任にとどまらず、学年内で情報共有できた。また、記載があった内容に関しては、学年内の職員で協力して対応した。</p>

学校別の主な取組及び振り返り・評価（7月～9月）

湯河原町立湯河原小学校		湯河原町立吉浜小学校		湯河原町立東台福浦小学校		湯河原町立湯河原中学校		
主な取組	振り返り・評価	主な取組	振り返り・評価	主な取組	振り返り・評価	主な取組	振り返り・評価	
7月	<p>○保護者面談（第1回）を実施する。</p> <p>○4～7月までの取組を振り返り、教育長へ書面での報告を行う。</p>	<p>○全児童対象の教育相談を実施した。これまでの教育活動の中での様子や成長を伝えたり、保護者からの相談を受けたりしながら児童理解に努めた。また、夏休みの過ごし方についても情報の共有をした。</p>	<p>○教育相談（全員）を実施する。</p> <p>○町の人権川柳に取り組む。</p> <p>○4～7月までの取組を振り返り、教育長へ書面での報告を行う。</p>	<p>○教育相談は全保護者を対象に実施し、児童の様子や家庭での様子について情報交換した。児童や保護者の困り感について、お互いに協力していくことを確認できた。</p>	<p>○保護者面談（第1回）を実施する。</p> <p>○4～7月までの取組を振り返り、教育長へ書面での報告を行う。</p> <p>○児童を理解したうえで、学校生活の様子や、成績について詳しく伝えることができた。</p> <p>○夏の研修として、講師をお招きして「人権研修～インターネットによる人権侵害」を行った。</p>	<p>○保護者面談（第1回）を実施する。</p> <p>○4～7月までの取組を振り返り、教育長宛へ書面での報告を行う。</p> <p>○全学年の道徳科において、いじめの傍観者に視点を当てた「いのちの授業」を行う。</p>	<p>○保護者面談で出されたいじめ等の案件については、学年内（必要に応じて学校内）で共有し、組織的かつ迅速に対応できた。</p> <p>○道徳の授業においていじめをテーマにした話題を扱った。</p>	
8月	<p>○いじめ問題、人権教育等に係る校内研修会を実施する。</p> <p>○いじめ問題、人権教育、幼小中連携等に係る、集合研修を実施する。</p>	<p>○人権研修会「ゲートキーパー養成研修」、いじめ防止研修会を実施し、共通理解を図ることができた。研修により、児童理解を深め、学級経営を見直すことにつながった。</p> <p>○町内学校園全体で同じ研修を受け、歩調を合わせて教育にあたることが再確認できた。</p>	<p>○いじめ問題、人権教育等に係る校内研修会を実施する。</p> <p>○いじめ問題、人権教育、幼小中連携等に係る、集合研修を実施する。</p>	<p>○「性的マイノリティの人権」を中心に、様々な人権問題について、マイノリティを支えるアライについて、ワークショップ等を通して考えた。</p> <p>○教育センター・調整監の話聴き、自分の思いや考えを伝え合える元気な学校を作っていくための、教師間、教師児童間の関わり方について考えた。</p>	<p>○いじめ問題、人権教育等に係る校内研修会を実施する。</p> <p>○いじめ問題、人権教育、幼小中連携等に係る、集合研修を実施する。</p>	<p>○校内人権研修を行い、文科省や神奈川県との取り組みについて、共通理解した。</p> <p>○湯河原町人権研修では、それぞれの教職員が人権意識について考えるきっかけとなった。</p>	<p>○いじめ問題、人権教育等に係る校内研修会を立案する。</p> <p>○8月には部活動顧問による部活動ハートフル、9月にかけて、担任などによるハートフルウィークを実施する。</p>	<p>○10月に実施する人権に関する講演会の企画を講師の方と連絡を取りながら、計画をすることができた。※予定変更で11月に実施</p> <p>○部活動顧問、学級担任が連携し、多面的に生徒と接し、ハートフルウィークを実施したことで、夏休み明けの生徒の小さな変化にも気付き、適切な対応につなげることができた。</p>
9月	<p>○教育相談週間（第2回）を実施する。</p> <p>○町学校サポート会議（実務者会第1回）に出席する。</p>	<p>○7月に教育相談週間を設定して得たことを、学級経営に生かすようにした。児童指導個別面談により、夏休み明けの子どもの様子を見取るようにした。</p> <p>○支援を行っている児童について、担任だけでなく、校内で情報共有をして対応について共通理解していくことが有効と確認できた。</p>	<p>○学級・学年で夏休み明けの児童の様子をよく観察し、児童理解に努める。</p> <p>○学習形態や活動の工夫をし、児童同士が温かい関わりができるような学習を行う。</p> <p>○学校サポート会議（実務者会第1回）に出席する。</p>	<p>○児童一人ひとりの様子や児童同士の関わり合いを全職員で注意深く見ていった。</p> <p>○変化が見られた児童に関しては、学年で情報共有、対応の確認をし、打ち合わせで全職員に周知した。</p> <p>○他校と情報交換を行うことができた。</p>	<p>○生活アンケート（第2回）を実施する。</p> <p>○教育相談週間（第2回）を実施する。</p> <p>○学校サポート会議（実務者会第1回）に出席する。</p>	<p>○子供や家庭について、長期休業中の様子や、学校が始まってからの様子を各クラスで確認し、共通理解した。</p> <p>○アンケートをもとにして児童に聞き取りをし、交友関係や学校生活についての確認をし、教職員で共有した。</p> <p>○各学校で、児童指導に対しての情報交換をした。</p>	<p>○ハートフルウィーク（第2回）を実施する。</p>	<p>○部活動顧問、学級担任と連携し、気になった生徒には、くり返し対応するなど夏季休業から9月にかけて、内容の濃いハートフルウィークを実施することができ、適切な指導・支援につなげることができた。</p>

学校別の主な取組及び振り返り・評価(10月～12月)

湯河原町立湯河原小学校		湯河原町立吉浜小学校		湯河原町立東台福浦小学校		湯河原町立湯河原中学校		
主な取組	振り返り・評価	主な取組	振り返り・評価	主な取組	振り返り・評価	主な取組	振り返り・評価	
10月	<p>○学校行事を作り上げる様々な場面で「人権」を意識した取組、指導、声掛けを行う。</p>	<p>○運動会のねらいに「責任、協力の態度を養ったり、好ましい人間関係を深めたりする」を入れ、指導した。互いに力を合わせて物事を創り上げていく機会となった。競技や応援で上学年が下学年をリードする姿が多く見られた。</p>	<p>○学校行事を作り上げる様々な場面で「人権」を意識した取組、指導、声掛けを行う。</p> <p>○生活アンケート(第2回)を実施する。</p> <p>○アンケートをもとに、担任と児童一人ひとりが面談を行う。</p>	<p>○19日に運動会を実施した。縦割り班を中心とした動きの中で、学年に関わらず協力し合うことができた。表現種目では「個性の尊重」をテーマにしているブロックもあった。</p>	<p>○学校行事を作り上げる様々な場面で「人権」を意識した取組、指導、声掛けを行う。</p>	<p>○運動会では、学年を超えて協力することで、互いの人権を大切にすることを学んだ。</p> <p>○音楽会の練習を通して、マナーを身に付け、学年間での交流ができた。また、他校の様子を観て自分の態度を顧みることができた。”</p>	<p>○学校行事を作り上げる様々な場面で「人権」を意識した取組、指導、声掛けを行う。</p> <p>○生活アンケート(第2回)を実施する。</p>	<p>○学習発表会、合唱コンサートは、予定通りに実施した。合唱コンサートでは順位を付けずに、学校の間関係づくりに、より一層生かすことができた。職員の反省からも、順位をつけずに全体の場で発表することのよさが出ていた。練習期間も昨年度より、短い中で行い、学校行事を成功させ、生徒の成長につながられた。</p> <p>○学級担任にとどまらず、学年内で情報共有し、組織的、かつ適切に対応できた。</p>
11月	<p>○Q-Uアンケート(第2回)を実施し、面談をする。</p>	<p>○Q-Uアンケートを実施し、学級の児童の様子を探る。これをもとに個別面談を実施し、個々の児童の抱える困り感の解決に寄り添うよう努めた。</p>	<p>○Q-U(第2回)を実施する。</p>	<p>○QUアンケート(第2回)を実施し、児童の学校生活に対する意識把握が図れた。児童の集団生活に対する満足感や自己有用感などを測定した。前期に行ったものと比較し、学年間で必要な情報を共有した。次年度に向け、児童の状況把握や学級全体への指導へ役立てていこうと思う。</p>	<p>○生活アンケート(第2回)を実施する。</p> <p>○保護者アンケート(第2回)を実施する。</p>	<p>○キャリアパスポートでの振り返りをし、後期に生かせるようにする。</p> <p>○アンケートの結果から、面談などを行い児童の困り感を把握した。また、子供の困り感を教職員で共有した。</p>	<p>○人権(価値的・態度的側面)に関係する講師を招き、講演を実施する。</p> <p>○生活アンケート(第3回)を実施する。</p> <p>○保護者アンケート(第2回)を実施する。</p>	<p>○人間の尊厳、自他の人権の尊重、多様性に対する肯定的評価に特化した講演会を学校全体で実施することができた。プロ野球という厳しい世界で、栄光も挫折も経験した方からのお話は生徒たちもよく聞いていた。自分に自信をもって一歩踏み出す勇気を高めることができた。</p>
12月	<p>○保護者面談(第2回)を実施する。</p> <p>○8～12月までの取組を振り返り、教育長へ書面での報告を行う。</p> <p>○児童指導全体会兼いじめ防止対策委員会を開催した。</p>	<p>○希望制で保護者面談を実施した。必要な家庭には働きかけた。それらも踏まえ、不安を抱えた児童へのサポートに努めた。</p> <p>○各学年の状況や児童の様子を伝え、教職員間で情報共有をした。学年間では、Q-Uの結果をもとに指導の在り方、手立てを話し合った。</p>	<p>○保護者面談(第2回)を実施する。</p> <p>○8～12月までの取組を振り返り、教育長へ書面での報告を行う。</p>	<p>○冬休みまでの児童の姿について情報交換した。必要によっては、教育相談コーディネーターが同席し、冬休み明けの指導や支援方法について確認をいただいた。</p> <p>○成果や課題、手立てを分析し、冬休み以降の指導の計画を立てた。</p>	<p>○Q-U(第2回)を実施する。</p> <p>○8～12月までの取組を振り返り、教育長へ書面での報告を行う。</p>	<p>○Q-U分析会で各クラスの様子を学校全体として把握した。</p> <p>○学年末に向けて、児童同士のかかわりや、保護者との関係をしっかりと把握し、具体的な手立てを記録しておく。</p>	<p>○Q-U(第2回)を実施する。</p> <p>○保護者面談(第2回)を実施する。</p> <p>○8～12月までの取組を振り返り、教育長宛へ書面での報告を行う。</p>	<p>○第1回に実施したQ-Uの結果を参考に、これまでの学活や、特別の教科道徳、総合的な学習の時間などを中心に、生徒に寄り添った対応を行ってきた。第2回の結果を踏まえ、次年度まで継続し、職員全体で対応していく。</p>

学校別の主な取組及び振り返り・評価(1月～3月)

湯河原町立湯河原小学校		湯河原町立吉浜小学校		湯河原町立東台福浦小学校		湯河原町立湯河原中学校		
主な取組	振り返り・評価	主な取組	振り返り・評価	主な取組	振り返り・評価	主な取組	振り返り・評価	
1月	○教育相談週間(第3回)を実施する。	○いじめアンケートを実施し、その後結果をもとに個別面談を実施した。面談等の時間を作り出すのが難しかったが、丁寧な対応でいじめ防止への取り組みができた。	○年始の自己目標を立てたり、残りの学級生活についてみんなで話し合ったりする時間をとる。	○冬休みが明け、児童個々の様子や児童同士の関わり合いを全教職員で注意深く見ていく。担任だけでなく、チームで取り組んだ。なかよし班活動を行い、6年生が中心になり活動することで交流が深まった。学校内の状況を掴むことで体罰の根絶に役立った。	○教育相談週間(第3回)を実施する。	○休み明けの児童の様子について、フロアミーティングや児童指導連絡会で共通理解をした。	○ハートフル(第3回)を実施する。	○気になった生徒には、繰り返し話を聴く機会を設定し、丁寧に実施することができた。また、情報を、学年教職員で共有し、必要に応じて管理職に報告し、一人ひとりに応じた対応を行えた。
2月	○経営反省会議等を経て、「児童・生徒指導方針」「いじめ防止基本方針」「いじめ防止等対策マニュアル」等について、来年度に向けての改善を図る。 ○今年度の取組を振り返り、教育長へ書面での報告を行う。	○年間を通して、いじめアンケート、Q-U等を活用するとともに、日頃の子どもたちとの関わりやちょっとした会話から、様子や状況、心情を捉えるように努めてきた。面談や関わりの時間を生み出すのは簡単ではないが、取り組み、児童理解をしていきたい。	○6年生を送る会の計画や取り組みを5年生を中心にしたなかよし班活動で実施する。 ○ピンクシャツデー(いじめ撲滅運動)の実施について事前に知らせ、当日は教職員が進んで、ピンクの衣服を身につける。	○児童会を中心に、「6年生を送る会」を企画した。(寄せ書き作り・遊びの日) ○ピンクシャツデーを2月26日に全校児童・教職員で実施し、いじめのない学校づくりに向けて取り組んだ。	○経営反省会議等を経て、「児童・生徒指導方針」「いじめ防止基本方針」「いじめ防止等対策マニュアル」等について、来年度に向けての改善を図る。 ○今年度の取組を振り返り、教育長へ書面での報告を行う。	”児童の実態を把握するために、個別の教育計画の見直しを行ったり、支援シートのある児童の保護者面談を行ったりした。また、その結果を教職員間で共有し、来年度に生かしていけるように記録を残した。 ○6年生を送る週間では、「送る会」や縦割り班の遊びを行い、6年生への感謝の気持ちを伝えるとともに、学年を越えて仲を深めることができた。	○生活アンケート(第3回)を実施する。	○学級担任にとどまらず、学年内で情報共有できた。また、生活アンケートに記載があった内容に関しては、学年内の職員で協力して対応し、必要に応じて管理職に報告し、適切に対応することができた。
3月	○一年間の振り返りやまとめの活動に取り組む中で、児童の様子や状況を見取り、思いを把握する。	○日頃の見取りやいじめアンケートからの情報、児童指導案件の報告があったときに迅速に対応してきた。いじめ防止マニュアルに従って、いじめ防止対策委員会を開き、対策について話し合った。	○運営反省会議等を経て、「児童・生徒指導方針」「いじめ防止基本方針」「いじめ防止等対策マニュアル」等について、来年度に向けての改善を図る。 ○学習参観と学年懇談会(3月7日)を実施した。	○必要に応じてケース会議を開いたり、児童指導委員会を開催したりした。毎週打合せの後に「児童指導」の時間を設けて全職員で情報や指導について確認してきた。次年度の課題として、新担任にもしっかりと引継ぎ、新体制がスムーズに始められるようにしたい。	○学年のまとめを行った。	○今年度の取り組みを振り返り、来年度につなげるようにする。 ○打ち合わせで、支援の必要な児童の情報共有と支援の方向性を検討し来年度につなげるよう資料を作成した。	○経営反省会議等を経て、「児童・生徒指導方針」「いじめ防止基本方針」「いじめ防止等対策マニュアル」等について、来年度に向けての改善を図る。 ○事前に生徒会本部役員と、いじめはなぜ起きるのかを考える。	○今年度の生徒指導案件をもとに「生徒指導方針」を職員全体で見直し、次年度に向け、よりよい指導方針へと改善していくことができた。 ○いじめはなぜ起きるのか、いじめをなくすために学校や生徒、教員がどうなればよいか、それぞれの立場から多くの意見がでた。

学校及び教育委員会が執るべき措置への提言に対する具体的な取組について
（「湯河原町いじめに関する調査委員会」調査報告書（平成26年3月2日）より）

【提言】

- ① 本件事故が起こった4月を、湯河原町の「いじめ防止・人権月間」のように位置付け、町内の小中学校で、本件を忘れないために、新年度のいじめ予防の方針を確認したり、「いじめ予防授業」や講演会などに取組むこと。
- ② 支援対策本部の提言を具体化するためのプロセスや財政的裏付けを検討すること。
- ③ 今回のいじめ対策を一過性のものとせず、継続と具体化の努力をすること。
- ④ 湯河原中学校が、生徒たちにとって、安心できる「居場所」となりうるよう意識した取組みをすること。
- ⑤ 教員間の連携を促進できる体制を速やかに確保すること。
- ⑥ 生徒や保護者の声を聴くためのアンケートは、しっかり目的を定め、記載内容は丁寧に拾い上げ、アンケート用紙の保管には十分に配慮をすること。
- ⑦ 町教育委員会の人的体制を充実させること。
- ⑧ 湯河原町は、いかなる児童・生徒を育みたいと考えているのかについて、子どもの最善の利益のため、宣言もしくは条例を制定して、全町民の共通の目標とすること。
- ⑨ 町教育委員会は、いじめ防止に関する対策の実践について、毎年検証を行い町議会に報告すること。また、町民が参加したいじめ対策協議会を設置すると共に、必要な費用を予算化すること。
- ⑩ 湯河原中学校は、スムーズな情報共有・情報連携のための校内システムを早急に確立し、また、毎年度末にいじめ防止の取り組みをまとめて町教育委員会に報告すること。
- ⑪ 支援対策本部の調査報告書及び本調査委員会の調査報告書をできる限り公開し、本事業の教訓を関係者で共有すること。

今後に向けての取組について
（「湯河原中学校支援対策本部」調査報告書より）

○学校として

- 1 いじめ問題対策委員会の設置
- 2 教職員の資質の向上についての取組
- 3 教育活動の見直し
- 4 生徒指導の見直し
- 5 教育相談の見直し
- 6 部活動の見直し
- 7 家庭・地域・関係機関とのさらなる連携
- 8 小・中の連携

○町教育委員会として

- 1 教員研修の充実
- 2 学びづくりを基盤とした授業改善
- 3 指導主事の派遣
- 4 町子どもフォーラムでの啓発活動
- 5 町支援教育アドバイザーの活用
- 6 スクールソーシャルワーク・サポーターの活用
- 7 町学校サポート会議の取組み
- 8 町学校支援ボランティアコーディネーターとの協力
- 9 地域への啓発活動
- 10 関係諸機関との連携